

【小学校高学年の部・優秀賞】

「平和をいつまでも」

豊見城市立伊良波小学校

六年 青崎佑紀乃

「佑希乃、ちょっと来なさい。」

遊んでいた私に、お父さんが声をかけた。せつかく遊んでるのに何なの、私はそう思った。テレビを見ると、みんな泣いていたり、花を持つたりしていた。今日って何か特別な事があるの？ 私は意味もわからずお父さんと十二時にもくとうした。

お父さんは私に教えてくれた。「今日は長崎げんばくの日だよ」と。私のお父さんは長崎の人だからこの日を大切にしているのかな、そう思った。でもこの時(げんばく)という言葉から戦争という言葉が頭にうかんだ。

長崎県でも戦争ってあったの？

沖縄県だけじゃないの？

いろんな県で戦争ってあったの？

私はこの時、初めて沖縄県以外の県でも戦争があったという事を知った。

それから私には戦争についてもっと知る出来事があった。

一つは、戦争を体験したおじいちゃんやおばあちゃんに話を聞くという宿題、そして二つ目は、校外学習での沖縄戦の勉強でした。私は長崎県にいるおばあちゃんに話を聞きました。おばあちゃんはアメリカから「もう戦いは終わります」という紙をもらったそうです。その時おばあちゃんが「もうだめ、自分で死んだ方が」そんな事を考えていたら、きつと今の私はいません。私は戦争を体験していないけれど、おばあちゃんから聞いた話をしつかり覚えておいて、これから戦争につ

いて勉強する友達や兄弟に教えてあげようと思います。

校外学習では沖縄県糸満市にある平和祈念資料館に行きました。その資料館の中にはガマが再現されていました。四〜五人で一緒に入っても暗くてこわいの、戦争の時はさらにとても大きいばくだんが落ちる音が聞こえたりして、おそろしかっただろうなと思いました。

沖縄戦の時の写真も展示されていました。その写真の中の一枚には、四〜五才の子が倒れていて、顔や手にハエが止まっている所が写っていました。ハエをおいはらう気力も無いぐらいだったのかなと私は思いました。

とても幼い子も、また、お腹に赤ちゃんをかかえて戦争を経験したお母さんもいた沖縄戦。

少人数の日本軍に入れられた若いお兄さん、お父さん、おじいさん。

一般民の命が失われた沖縄戦。

沖縄戦を体験した人の中には、「僕、私は戦争をおこしてほしくない」と思う人はたくさんいたはずだ。

その戦争が六十六年前、この沖縄でおきたこの地でアメリカと沖縄が戦った。こんなにきれいな空、きれいな空がある沖縄で六十六年前に戦争があったとは思えない。

争いをしたからといってだれかが幸せになつたり、笑顔になつたりするわけではない。でも戦争はおきた。今でも沖縄には不発弾が残っています。不発弾でけがをした人、家がひがいにあった人は何人もいます。

私は毎年六月二十三日沖縄終戦の日、八月九日長崎げんばく投下の日の十二時にもくとうをしています。今の平和がいつまでも続くように、そしてもう二度と戦争がおこらない

ように願っています。

戦争がおきた悲しみはまだ多くの人の心の中に残っていると私は思います。

その悲しみがもう二度とないように、戦争の話を教えてもらったりした方が私はいいと思いました。

いつの日か、どの国でも争いがなく、みんなが仲良くなつて、みんなニコニコ笑顔になれると私はいつまでも信じています。

その日が来るまで、いつまでも、いつまでも。